

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		メリーほっと		公表日		2025年3月30日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	2	個別療育（マンツーマンや2～3名の小グループ）や集団遊び（室内遊び、戸外遊び）に分け、物理的な配慮を行いながら支援を行っている。	・静養室がほしい ・クールダウン部屋、午睡用のスペース、静養スペースが必要 ・小グループが入れる空間があると療育しやすい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	3	お預かりしているお子様に特性や人数に応じて職員の配置、人数の調整を行っている。	・利用人数によっては職員+1名欲しい。 ・職員の人数不足を感じる ・マンツーマン対応が必要なお子様が多い為、職員不足を感じる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	3	肢体不自由児が利用している事業所の構造、他ご利用者様の影響を考慮すると完全なバリアフリー化は難しい。安全面を第一にマンツーマン対応を行っている。 また、トイレに関しては大人用のトイレの為、落下防止の為に簡易的ではあるが手すりを設置し、トイレの上り下りや落下防止に努めている。	・トイレに手すりが設置されているとよい。 ・水回りが子どものサイズではない ・段差の解消が必要 ・肢体不自由児がいる為、バリアフリー化されていないのは配慮に欠ける	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	日頃の掃除だけでなく、エアコンや空気清浄機、その他の細かな場所を定期的に掃除をし、美化に努めている。	・糸定で過ごしている中で冬場は大人でも寒い床暖房は必要 ・床が黒くなりやすい為、定期的に床を磨き清潔に保つ。時間が足りない為、早帰りの時間を増やす必要がある。もしくは業者を手配する。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	個室の部屋は防音になっている為、周りの音が入りづらく集中しやすい環境になっている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1	仕事への意欲が高く、朝礼や終礼を通して支援内容の振り返りを行い、常にPDCAサイクルに努めている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	勤務形態問わず、意見を取り入れ実践しやすい環境に努めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	5			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	利用者のいない時間帯に研修時間を設け、職員の専門的知識や支援質向上に向け個別での研修時間を設けている。	実上、研修確保の時間が難しい。個々の研修時間を設けることは出来るがグループ研修を行うことが非常に難しい。営業時間短縮し、研修する時間確保の工夫が必要。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	定期的ではあるが保護者様と面談する機会を設け、ヒアリングを行うと共に保護者様から得た情報を職員に周知し、最適な計画書を作成できるよう努めている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	支援日誌や送迎時やその他何らかの形で保護者様より得た情報を職員に共有し、日々の支援に反映できるよう努めている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	それぞれの目標が異なる為、必ず目標に沿った支援が出来ているとは言いがたいが目標に沿った支援が実施できるよう工夫や配慮をしている。	職員の配置人数により個別対応が難しい場合がある	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1			常に情報を共有を行い、差異のない支援を心掛けている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	ガイドラインに沿った個別支援計画書を作成している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	全体で行動することもあるが個別やグループを作り、お子様に合わせた支援が提供できるよう務めている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	毎朝、朝礼を実施し、当日の活動の注意点や流れ、前日の支援内容の再度共有を行い、支援質向上に務めている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	退勤前に必ず終礼を実施し、活動内容や支援方法等振り返りを行うと共に翌日からどのように支援に当たるか具体的に話し合いを行い、支援質向上に務めている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	終礼実施中にデジタル日誌を作成し、振り返りを行いながら記録を残している。いつでも見返せる状況にし、日々支援の改善に務めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	児発管の観点だけでなく、他職員からの意見を取り入れながらモニタリングを実施している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	気になる利用者がある際は相談員に連絡し、担当者会議の開催を推進している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	3		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	保護者様の希望により、利用しているお子様が保育園、幼稚園に移行できるよう務めている。また、保育園など併用児に関しては園見学や情報共有に務めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	教育センター指定の申し込み書の提出や支援中の様子を見学していただき、情報共有に務めている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。	0	0		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	0	0		
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	1		
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	保育園との直接的な交流はないが公園遊びなどで交流を行っている。	利用児の特性上、玩具を取る、怪我といったリスク及びトラブルに発展しやすい為、交流が難しい時が多々ある。適切な人員配置の元で利用児の遊びに目が行き届く中で交流する機会を設けていきたい。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	日頃よりHUGでの連絡や送迎時のご家庭での様子、事業所での様子を共有し合い、共通理解に務めている。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	5	・親子ふれあい遊びなどで言葉掛けの様子や対応の様子を見てもらう機会を設けている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時にご説明させていただいている。	HUGの活動記録や書面で再周知を行う必要。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	HUGの保護者連絡や送迎時等にヒアリングを行ったり、面談を行ったりして情報共有や助言を行っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0		
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	保護者様からのご相談があった際は優先的に対応すると共に可能な限り、支援が行えるよう体制作りに努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0	HUGやLITALICO発達ナビなどで広報やブログを公開し、情報提供する工夫を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5		年齢が若い為、利用者主体ではなく、スタッフ主体になってしまう為、開催が難しい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0		徹底した周知ができていない為、改めて周知する必要がある
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	2		アセスメントしているが知らない情報がある。その為、お子様の情報を適切に把握する為にアセスメントシートの改善を行う。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	2ヶ月に一度避難訓練を実施し、安全な避難方法を繰り返し検討している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	デジタル日誌を作成し、支援当日のヒヤリハットを記録。その時の対応や今後の対応方法を記録し、改善に努めている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	0			